都林泉名勝圖會

乾

421

20.

7010
754
.44
6

都林泉名勝圖會

秋里籬島先生著述

全部六冊

山水河邊て草木の枝
葉ハ波にうつろふしめ草木
ある事て山水の風景を
らうつほして是とのこゝろ
形景ハ文人墨客もゆふ風雅

おほしめしつよう山水
はさのしれ人たちもなれせ
ゆくさき遥く見ゆるを
津ゝ海さとへはすこしく
婦星籬島也いつ梅ろしの

花落林泉も名ありゆえ
さしゆくき画よりもさしめ
うれ故実由縁ぞなくて
しく書けらるもの道ハ
都の人もよろ花のこゝゆ候

みえ見候もしぬさころ清し
もし能あらなれハ愛妹光幼
し車馬誰ハ女を里なすゑ
居すつらに幽邃の風景と
兎て里のしまもしの心ハ

それもしてあはさふらまへ世々
こ経まかこれおかひとうすぬ
雅麗なりし流様間文帝れ
美林園をそ心よ雪する
ところハ何をかなすれしきし

遠きにあそぶや瀟湘にて
林泉は洞の涛つらに濛濮同
の想ひを寄せのぬましに
はなしつおもむきもよれ無拙し
彼圖會にかなふ成冊に双第

せはしき同好の人にひろ
免あるはすかゝるにひお
於もむくたとひ見なすを好人
といおもひもしこて綴さしけれ
ませやゝうちは感しとぬ

流ゐけ記言紫ぬし
かい津定ゐら
寛政とし何まで
ひとつ梅の春

藤波二位季忠卿

氷竹居主人書

凡例

一此書ハ前板築山庭造傳を基として京師四方名庭并林泉及猶て郊に都林泉名勝圖會と題書を梓れども宮殿臺榭山閣水亭ノ鍋舎蓬戸の林泉及び類多く餘ハ後日縁を需て巡覧し後編に備ふ

一諸寺方丈書院の名画名筆又ハ什寶并干の體相れ大略を書を除ハ其寺院の荘厳京師の美観ん殊なるといへども際限あらざれバ具ニ記さる事能ハず餘ハ寺僧に訪て詳ニ弁べし

一勝地によりて風流の圖あり強林泉に寄ざれども其地の風光を彰さんがため又典故の繪ありこれをも左に准ず所謂紫野菖蒲伏水梅渓西谷納涼高雄紅葉大堰川三船等の類ひあり

一林泉に古人の詩歌多し故に今時京師に於て名家の詩歌を乞需て多く圖中に釘を其中に作者自筆の詩歌もあり誹諧狂歌も示まゝに准ず

一畫工ハ一筆にあらざれバ圖毎の印章各姓名あり是をもつて画師を辨に知べし

一庭造の法則あるハ側の亭宅を除て画くされハ林泉の規範となすべきの料あり法則兼ざるハ舎屋を圖し風景を専とし又四季折々の花樹有るハ大畧其樹々を志らせん為に時節に寄らバこれを画くもの又は梅櫻蓮楓あるの類之

一法則にかゝわらず遠景を收庭井ハ都て其遠景を圖し遠景不用意の庭ハこれを省く又圖毎に人物の画れ小大あり其ハ貌の小大によりて林泉の廣狭を志るべきなり

都林泉名勝圖會巻之壹

目録

神泉苑
鷺宿梅
雲林院御遊
大徳寺
土地堂
鐘樓
明智門
方丈
金剛軒
宮池
瑞雲亭

七夕蹴鞠
什寶
紫野
大雄殿
祖師堂
浴室
寝堂
雲門庵
看雲亭
梅橋
達磨嶂

相國寺
紫野若菜摘
雲林院
演法堂
経蔵
敕使門
三解脱門
起龍軒
明月橋
古渓松
什寶虫拂圖

塔頭繪攝
大用庵
養德院
興臨院
總見院
天瑞寺
高桐院
金龍院
芳春院
清泉寺
梅岩菴
常樂庵
紫式部碑

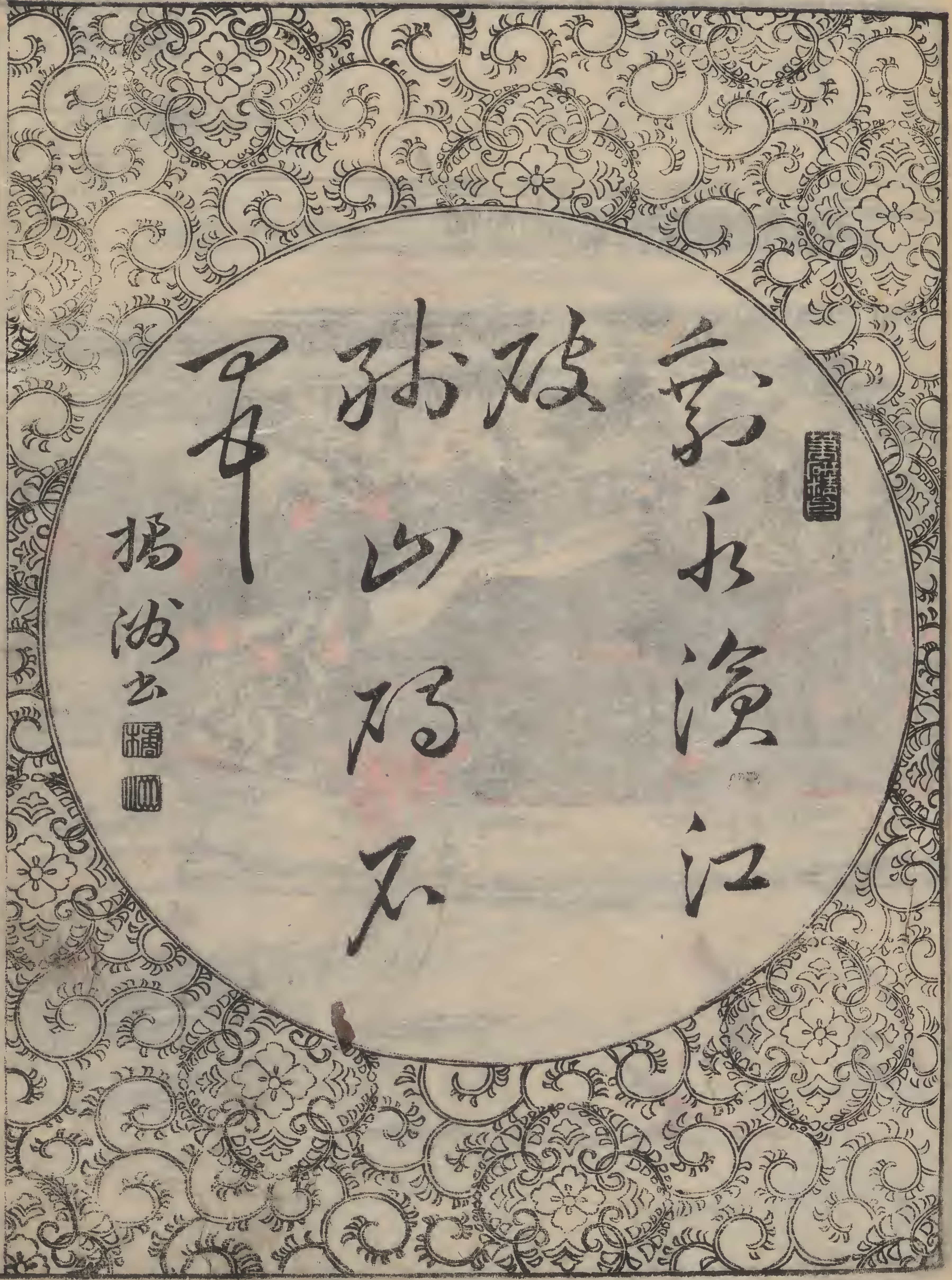
德禪寺
松源院
竜源院
瑞峯院
黄梅院
正受院
玉林院
昌林院
○寮舎
瑞源院
高林菴
孤篷庵
龍翔寺

如意菴
眞珠菴
大僊院
聚光院
三玄院
大慈院
大光院
龍光院
龍泉菴
寸松菴
見性庵
碧玉庵
碧玉 松
引接寺

本法寺
千本焔魔堂大念佛
十九箇條傳授
土地堂
大將堂
赤松圓心塔
蛭子社
榮西禪師揚錢圖
靈洞院
四條河原納涼
眞如院
眞如水
七夕菴花

什寶
池坊
建仁寺
開山堂
鎮守
當山十景
十日蛭子詣
正傳院
祇園一宮
戯場顔相見
八寶燈籠
西本願寺
盆ノ燈籠

巴庭
七夕立花
佛殿
方丈
無盡燈
扁額
畫墨麗樹五千圖
織田有樂茶亭
祇園橋由緣
本圀寺
烏帽子石
林泉
東本願寺



渉成園
釣殿院
遍照心院
圖巾圖
東林院
宝輪院　林泉
山吹岡本氏涌泉　烏石扁額
東鴻臚館趾
桂宮
方丈林泉　烏帽子石　鶴石
六孫王社
南谷書齋幻華庵
茶亭
六條内裏
融大臣旧館
壺寶
實法院蓮池
東寺
御影供詣

都林泉名勝圖會巻之一目録　終

神泉苑御遊
懐古
鳴鑾聞昔下龍池千柳争迎五色旗今日偶来池上看雲寒下座岍邉祠
拷亭
波まくら かゝりあけゝる 移九の はふきや 代々の たゝるゆらん
八幡 美濟

清少納言の枕の草紙に云九月ばかり夜一よふりあかしつる雨のけさはやみて朝日いと花やかにさしたるに前栽の菊の露こぼるばかりぬれかゝりたるもいとをかしすいがいらもんすゝきなどのうへにかいたる蜘の巣のこぼれのこりたるに雨のかゝりたるが白き玉をつらぬきたるやうなるこそいみじうあはれにをかしけれ少し日たけぬれば萩などのいとおもげなるに露の落つるに枝のうちうごきて人も手ふれぬにふとかみざまへあがりたるもいみじうをかしといひたることゞも人の心にはつゆをかしからじとおもふこそ又をかしけれ。兼好のつれ〴〵草に家にありたき木は松さくら松は五葉もよし花は一重なるよし八重桜は奈良の都にのみありけるを此比ぞ世におほく成侍なる吉野の花左近のさくらみな一重にてこそあれと書れたり抑平安京遷都の初秦川勝が宅を転じて紫宸殿となし給ひ階下に古梅あれども其侭に植置れたり 天暦御記 厥后李部王の家の桜を坂上瀧守詔を奉て移し植る是を南殿桜左近桜

ゆゑもこれは御階の橘と相並ぶ又秦保國の後園の名木なる年代ふりて後天徳の頃右近将監勅を奉りて植継ありしより右近橘と称すべし又もかれこれをもて都林泉の基とせんも可ならんや

支那 されば[?]やむかしく庭の[illegible]をかざれる池を設る千世の初是 後漢

神泉苑は上古封境広くして二條の南三條の北大宮の西壬生の東凡地八町の間に天子遊猟の所乾臨閣を正殿とし次に巨勢金岡石を置むといふ 拾芥抄 大内裏図にも見えて造営ありし時は周文王の霊囿に準じて方八町に作られし泉苑の雅池なり善女龍王あらはれしより神泉とも号け又其めぐりは洛中に課せて柳桜を多く植られたり弘仁三年二月に帝すでに行幸ありて観花の御遊あり文人をめして詩を賦し禄を賜ふ事差あり 類聚国史 花宴節会は嵯峨の貞観十二年十月鳳凰乾臨閣のまへ鴟尾の上に集る 三代実録 又神泉苑に於て御霊会を執りせらる是日苑の四門を開いて都の貴賤を出入し縦観せしむ又菊宴なる女楽は南の瀧殿に奏し盃をめぐらし舟に遊ぶ

渡りて閣前の幄に就て楽を奏す 式 内裏相撲會にハ少納言大舎人と共に東の瀧口上の橋頭に候す又貞観十八年六月にハ疫神を神泉苑に送る是祇園會の濫觴也初意の左衛長ハ真言院より出して焼上るなり此時法成就池と號を弘法大師ハ善女龍王を祈つて請雨の法を行ひ天下旱魃の愁を拯て威感を崇る小野小町も和哥を詠じて雨ふら降らし鷺ハ宣旨を奉て五位の爵を賜ハ 白河院御遊の御料をつりたせて叡覧あるに鵜池中に入て金覆輪の太刀を啣へて上るをもて銘を鵜丸と名付て其外代々の 帝も御幸ありし事叡田之中須明徳應仁の兵燹に罹て今ハ僅の林泉となる志かハあれども大内裏の遺跡千載の賜とぞ思ハれぬる

本朝文粋 冬日於神泉苑同賦葉下風枝疎 源順

神泉苑者禁苑之其一也。紅林地廣。呑楚夢於胷中。縁池水高。縮呉江於眼下。戸部省侍郎以下。偸取暇豫于其間。蓋亦禁漢釣不禁吟詠也。観夫葉隨風下。枝逐日疎。梧楸影下。一聲之雨空灑。鷗鴨背上。數片之紅纔殘。蕭々然颯々然。誠足以感耳目者也。于時短晷已傾。長庚将出。以文會友。暫雖携風月之遊。退食自公。飽難玩林池之妙。恨来暮而去早。請衆興以遺詞云爾

經國集 和海和上秋日觀神泉苑作 滋貞主

閑梨下自南山幽。勅許令看上苑秋。御路蕭疎楊柳影。遵行直到白沙洲。廻瞻粛殺無紛濁。眼沸清泉一細流。小嶺登攀頻見鷩。暗林拂入欲驚鳩。三明湿照龍池閣。二道重迎秋薫樓。法侶相随喜樹下。不殊耆闍與大比丘。

年中行事哥合

ちはやふる神の泉はそのかみや旱をゆるのそらし成らん 宗時

ほれく州 さきちやうを正月にわたるさきちやうを真言院より神泉苑へ出して焼あぐるなり 法成就の池にちなみをとるやまた神泉苑の池をいふ也

七夕蹴鞠

飛鳥井家に傚ひて
乞巧奠は
つまを程を
人々あり
是神に
蹴鞠とる
いつのへ
官客あへ
おもとて
女といへと
これをみ
おたあひ
とりと
おぼえく
なりつれは
口号ける

久方は星はまくまく
　揚まんも
ならひあへ星や
あまへかうらん

岡田子葛蹊

相國寺林光院
鶯宿梅

鶯宿梅
處々東風花在[illegible]
[illegible]
[illegible]
天[illegible]千載[illegible]
鶯宿梅
相國寺 維明
維 明

舊苑春囲非舊春
鶯花陌上落紅塵
芳魂今日縱招得
誰是風流作主人
栲亭

蹴鞠の御遊ハ用明天皇の御宇處士より始りて上宮太子の御徒然を慰奉らんとて云卿より始給ふ（埃嚢抄）厥后文武天皇大宝年中内裏に尊崇せらる鞠の神ハ近江志賀郡松本精大明神 祚ハ猿田彦命の垂迹とぞ云ふ初ハ洛陽桂宮に在しが又 後鳥羽上皇も此道を賞し給ふ今ハ七夕の日恒例として飛鳥井難波の両家に於て蹴鞠あり此日ハ梶の御鞠とて雲上家各入又地下の門人も来り書院の椽側にハ種々の色ある鞠を飾らせ鞠庭にハ四本の松を立そとしく許色の衣に紫裾濃の袴を着し両々三々の高低に身を飛ちる沓の音斜陽の影に響きて都の壮観なり

丈左
鞠の庭に桜柳を移し植て春ハ錦に立やならしらむ　名家

相国寺ハ上古出雲寺とて伝教大師の草創し給ふ天台の仏刹也永徳年中足利義満公禅院とし夢窓国師を始祖とし妙葩禅師を二世とし封域に十余あり惣門の前を般若林といふ排門を勅許と号け山門を円通といふ仏殿を覚雄宝殿といふ仏殿の前の川を龍淵水と号し蓮池を功徳池といひ天界橋を架たり輪蔵を毘盧堂といふ潮音楼と鐘楼あり此鐘ハ南都元興寺の鐘にて中頃鬼神出来て撞けりハ敬ふ人恐れて撞ざりしを相国義満公の命によりて此寺に掲る（碧巌記）

護国廟ハ八幡宮を鎮守とし当山鎮守とす塔頭林光院にハ鶯宿梅あり是ハむかし紀貫之の家にありしを清涼殿の前に植られんとて求めたまひし貫之の娘がよみたれバ其ハ返しかへしぬ豊光院にハ普門定家卿の墓あり松鷗軒にハ法然水あり末ハ原賀茂の神宮寺にして今の百万遍の旧地也

当山開山堂の前に林泉あり鴨川の支流にて風色絶妙なりしが近年天明の回禄に罹りて林泉荒廃せしを故に図にも出さず　慈照院　当寺什宝ハ縄目文殊画像の筆。砥平石の讃ハ世に齊唅文殊といふ啼鶴の二幅対を士豪の筆。昔屋より渡りし此二幅をば啼とや呂輝の花鳥。趙子昂の墨蹟。松風の鐃鈸。小狐の鐃鈸。太宗皇帝の書。陸信忠筆の十六羅漢。絶海和尚の十牛の頌。古法眼元信の文殊。其外数百品ありて是に畧す

紫野(むらさきの)
若菜(わかな)つみ

若菜の [illegible]

伴蒿蹊

紫野

思樂紫野于采其芹
是采是獲
薄薦吾親
思樂紫野于采其茅
日之永矣以遊以遨
以遨以遊以遊于紫之野
變兮諸姫既都且雅

佐野憲

雲林院（うんりんゐん）花見（はなみ）

名寄
きれやこく
雲の林に
さかふらん
花が花の
ちるら
やこと
めん
西行

雲林院にて
桜の花を
よめる
古今
いざ
桜
我も
ちりなん
ひと
さかり
ありなば
人に
うきめ
見えなん
承均法師

紫野（むらさきの） 大宮の北方の惣号にて七野の其一野なり 延暦十四年十月天子おりゐて遊猟し給ふ

後拾遺
白妙のとよみてくらをとりもちて祝ぞ初るむらさきの野に　長能

続古
ねられしや妻は忘てん下野ゆかし紫野より庵はるかなる　太上天皇

雲林院 紫野にあり 原淳和帝の離宮也天長九年紫野に行幸し給ひ陪従の文人に命じて詩を作らしめ御製の和を賜ふ其後雲林亭と称して時々ここに行幸ある 類聚国史 承和十一年八月 仁明帝も亦行幸ありて宴を群臣に賜ふ其後雲林院を同帝の皇子常康親王に給ひて殿宅となす次帝遐遁の後親王落髪して遂に其僧正遍照に附属し精舎となし給ふ 帝の追福の為に毎年安居講を修して勅願寺となる本堂は親王の居室にして持たるの千手観音を安置し又室の上人もまたここに住す 則常康親王の御子なるゆへ又定覚阿闍梨も年久しく此院に籠て村上帝の勅願として大般若を読誦せしめ宝塔を建立す次に此日天皇ここに行幸し給ふ雲林院の別当補任は天暦に実性僧都康保元年より謙徳公伊尹 干時名蔵 従四位下 別当に補せられき 円融帝永観元年勅して円融寺を雲林院の側に建て給ひ 帝御位を退き円融寺に宸居ありしく崩じ給ふ其時閑院左大臣追悼の為に

後拾遺
紫の雲にかけても思ひきや春の霞になしてみんとは　朝光

円融院の法皇うせさせ給ひて紫野にて御葬送仕りけるに一とせ此所にて子の日せさせ給ひし事など思ひ出でてよみ侍りける

今は雲林院の跡の北に天皇墳とて陵あり又牡塚の北二四町計に塚あり此字の地あり是れ世に常康親王の古墳なりといふ物換り星移りて 後醍醐帝元亨四年雲林院の敷地を大徳寺開山大燈国師に給ひ故に再興に及び大徳寺の子院となる今はむかしの面影もなく形ばかりの僧の住める客殿彩画の一式は狩野探幽探守の画筆なり 雲林院も應仁の乱に次に滅びたり其後大原に再興へた

六帖
木のもとにとふらぬみしものはのがるゝは雲の林に紅葉入りけり　業之

名寄
紅葉をる雲の林もおなじくは我を住人顔ぞなるけなし　家隆

扈従雲林院不勝感歎聊叙所観

菅贈大相國

雲林院者昔之離宮。今為佛地。聖主玄覽之次。不忍過門。成功德也。侍臣五六輩。翫風流而隨喜。院主一兩僧。掃苔擁以恭敬。供奉無物。唯花色與鳥聲。拜謝有誠。唯至心與誓首而已。予亦嘗聞于故老曰。上陽子日野遊厭老。其事如何。其義如何。倚松樹以摩腰。習風霜之難犯也。和菜羹而啜口。期氣味之克調也。況年之閏月。一歲餘分之春。月之六日。百官休暇之景。今日之事。今日之為。豈非為無為事無事乎。予雖愚拙。久習家風。迴輿有時。走筆無[illegible]。聊舉一端。文不加點云爾。謹序

冬日遊雲林院西洞玩紅葉

江以言

雲林院西洞者。天下之名區也。近世事踐其北域之者。毎至花春葉秋。莫非雲龍風虎。於是左親衛員外次將。請暇霜枝。乗輿風情來遊此間。蓋有以矣。次將槐露以承家。蓬砂以立操。文綵煌々。漢家之雌黃失色。筆力嶽々。唐室之雄伯差肩。于時屬玄英之已半。玩紅葉於其中。自秋及冬。送數日而深出。衰梧老柳。無一枝之遺留。至夫飄飄無數。高下不定。落敷池中。風疊赤光赤色之浪。飛散佛上。霜添曼陀曼珠之花者也。既而當于紅螺之聲忽暮。玄鶴之駕將歸。禮部郎中以言。拜温官而含歡。對寒林而遺恨。云爾。

大徳寺

紫野にあり禅刹 龍寳山と號す

龍寳記略に云

紺園は平安城の乾方紫野にありて西は鷹峰に接して東は比叡を俯して船岡を南の界とし賀茂川北に接す地勢夷曠松檜蔚然たり實に禅寂無塵の浄域にして大燈國師の開く所也（諱宗峰）既に南浦和尚（大應國師）の法を嗣て蹤を洛東雲居寺に止めて后ここに移る檀越赤松圓心則村同じく則祐一院を創して大燈國師を請ず叄問の緇素日にまさり道場益を

時に叡山の玄恵法印又洸心子と号す其党数人と倡て達磨宗を破せんとて
難来て問難法度殺條に達へ吾宗宗峰の機鋒に当る事協へずして
窟服し誓願して弟子の礼を執る就中玄恵ハ禅に傾く事
厚し直に方丈に営て前罪を謝し又宗印とて看師に帰崇して
諸堂を建て禅刹となし其頃花園法皇勅して入内を許し輙
禅要を問て奏対叡慮に惬ひ忽寵を叢に蒙て法を談し興禅
大燈国師を賜ふ　後醍醐帝礼敬特に深し朝廷第一の祈祷所
とし屢禁腋に法座を設け国師を請じ陞座説法あり　天皇自
弟子と称し投機の偈及ひ著語等の宸筆を賜ふ元亨二年
天皇宸翰を染られ本朝無双の禅苑と称す
開山大燈国師名は宗峰字は妙超といふ父ハ播州浦上掃部助入道覚性也
赤松則心の次男季房の女ハ浦上掃部が覚性の室なり是国師の母なり
筑前崇福寺の五世とし又但州祐徳寺を創し建武四年丁丑臘月廿二日遷化五十六歳雲門菴に塔を

○大雄殿　佛殿とも云本尊釈迦佛 額祈祷 張即之筆 創は應仁兵火の後文明十一年一休和尚 初め当山二世徹翁和尚 泉南の宗臨及ひ同郷の淡路屋尾和 法名徳源 再興し同年六月落成 又其後寛文八年那波秀有 弊陋なるをもつて一新す今の堂是なり

○演法堂　初ハ赤松則祐創す亨徳年中再建 稲葉正勝度建立す天井画龍狩野探幽筆 江月和尚に帰依し

○土地堂　伽藍神 梵天帝釈及ひ大小神祇を安す

○祖師堂　初祖菩提達磨 百丈懐海 開山大燈国師像を安す

○経蔵　京師那波宣旦法眼是を建て蔵経を贖て櫃中に蔵む 慶長十四年秋益田玄蕃頭元祥一新す

○鐘楼　銘は建長言加書す

○浴室　額張即之筆 再興元和八年

○敕使門　京師灰屋紹由是を建る 旧ハ九重の陽明門也 南方正門 寛永十七年 明正帝是を賜ふ 勅使来駕の時是より出入す

○明智門　方丈の東にて門ハ明智光秀建立 伝云光秀天正年中 真君信長公を弑して自ら令の保ざる事をしり金子千両を当山に納て冥福を祈る故に此門を建て其名を残す

○寝堂　再興寛永七年 石州益田玄蕃頭藤元祥 再興す法名紹 又全年と号す長門侯に仕へて八千石を賜ふなり此堂初めの建立の施主詳ならず

大徳寺（だいとくじ）
方丈
天祐和尚作
明智門
比叡

○三之解脱門 俗に山門といふ 額金毛閣 張即之筆 閣上彩画 長谷川等伯筆
本尊釈迦阿難迦葉十六羅漢を安ず 釈迦三尊ハ旧龍翔寺大雄
殿の安置仏之寺宇破壊に及んで当山に移す 十六羅漢ハ古渓
利休の寄附之今の三門ハ連歌師宗長の建る所之其後古渓
和尚檀越千利休を勧て閣を門上に設く

金毛閣梁棟銘

帝徳高輝覩寿域於万歳 檀越泉南利休居士修造
祖風益盛開法門於無窮 住山洛北春屋叟宗園書

春屋慶賀偈云

千門万戸一時開 月斧雲斤功大哉
踞地金毛高閣上 挙揚臨済話頭来

連歌師宗長ハ宗祇の弟子にして駿州島田の人也 柴屋軒宗長と
号し老後今川義元の招請によりて同州丸子驛泉谷に幽居し
享禄五年三月六日没す 八十五才 名しれハ東海道名所図会に記之
一より宗長初当山真珠庵を建て其後諸堂を経営し悉く
備まりいまだ山門成ず 宗長云 ワ亡吟五十貫を施し費用の
万一とかなへんとて遂に秘蔵の珍宝定家卿真筆の源氏
物語を沽却して
功を遂るとなり

○方丈 初め玄恵法印建る 応仁兵火の後宗南の宗源及び義源等
方丈厨を建る 寛永十三年京師後藤徳乗益勝 方丈及
数陋あるとかいへ新に方丈を造る 故に古方丈を移して
庫院とす 方丈ノ額張即之筆

○客殿 襖 墨絵山水 狩野探幽筆

○雲門菴 開山大燈国師の塔所也 方丈の内にあり 額に曰 霊光 初めの
額ハ後醍醐天皇宸翰 享禄中に焼亡 今揚る額ハ
後土御門帝の宸翰也 花園法皇御髪塔あり 法皇詔によりて
御髪を小塔の中に納め霊光塔に安ず

○起龍軒 方丈の乾にあり ○金剛軒 仏堂の南にあり ○看雲亭 方丈の巽にあり

○明月橋 仏殿と法堂との間にあり

○宮池 明月橋の東にあり 伝云 後醍醐帝当山に遊遥し給ふ時
池畔をめぐりし指點しく国師に宣ふ 此地正に一池を開く
不可也国師勅命じく おもて家宗故に宮池と名付く又五老松を
植えあり 宮池の北五松の大樹あり

○梅橋 古梅ありて宮池に橋して架渡かし故に名とす

○古巌松 鶴松已に枯れて其跡を知る次今古方丈南庭の松
最秀可之故に名称のとかいふ

○瑞雲亭 仏堂の南金剛軒の内にあり

○蓬萊峰 未詳何峯 或云 指比叡山 是風景よろしく当境に
あらさるか 按以心境相対論之 右雲門菴已下の
十名ハ大徳寺の
十境とぞ

大徳寺什寶虫干曬掛圖

運庵虚堂南浦之祖自賛ノ畫像　三幅

大燈國師像　一ハ自賛　一ハ後醍醐帝御賛　二幅

大燈國師投機ノ頌　一幅

大燈國師垂問　後醍醐帝下語　両筆　一幅

後醍醐帝投機頌　一幅

大燈國師傳紫衣遺屬ノ語　一幅

大燈國師遺偈　一幅

大燈國師與徹翁印證　徳禅什物　一幅

同　與徹翁號　同　一幅

徹翁和尚與言外號　同　一幅

同　遺誡偈　同　一幅

徹翁　大祖正眼禪師號　同　一幅

徹翁　天應大現國師號　同　一幅

大燈國師親写傳燈録　合為十五册　卅卷

徹翁和尚親寫餘游録　徳禅什物　一卷

同　写舎利記　一卷

後醍醐帝宸筆朗詠　一卷

大燈國師菩提講敷地證文　雲林院志中ニ在　一幅

同　草書簡　二幅

中正藏主草書簡

古幢和尚草書簡

大徳寺與南禪寺等位年號勅例　菊亭右大臣

虚堂墨跡寄附之記證

虚堂達磨忌拈香之墨跡　一幅　桑山果法院寄附

虚堂書簡　一幅

同像　行墨酒洞筆　右枕賛　一幅

佛眼像　自賛　一幅

後水尾院宸筆和歌　二幅

大燈像　一条院真敎親王筆　一幅

觀音像　月壺筆　一幅

觀音龍虎猿鶴　牧溪筆　五幅

十王像　陸信忠筆　十幅

十六羅漢像　兆殿司筆　十六幅

五百羅漢像　禪月等所画　百幅
總見院什物

右ハ鎌倉寿福寺の什物也真源相州小田原北条の手ニ入瑞溪寺ニ安於小田原北条亡びし後秀吉公取上ヶ之ヲ京師大佛殿の寺宝と成大佛殿ヨリ古溪和尚所ヽ創之故ニ總見院什物となる今方丈ニ存ス是を已上龍宝誌ニ出ス

徹翁像

同遺誡偈

徹翁號

同遺偈

印可状

勅使間

五山綸旨

元弘三年宸翰

開山遺偈

建武四年宸翰

元弘四年綸旨

雲門庵

後醍醐帝投機頌

開山示後醍醐帝法語

毛主九頌

開山投機頌

法衣附傳語

菩提状讃證

祈願所綸旨

古照所領綸旨

吹擧状綸旨

再興綸旨

三百年忌綸旨

開山墨跡

同

同

開山像 自賛

方丈

後醍醐天皇宸翰朗詠 卓ノ上

運庵像 自賛

大應像 自賛

開山像 自賛

虚堂像 曇西澗賛

佛眼像 自賛

禮間

○龍光院名畫墨蹟掛麗之圖

子昂之行墨蹟

葵舜擧

菊趙昌

葵舜擧

五祖 印月江贊

三祖 砥平石贊

初祖 端原曳贊

觀音 月壺

二祖 心笠贊

四祖 逸樵隱贊

六祖 芝靈石贊

寒山 顔輝
拾得 同
仁叟墨跡
観音 清拙賛
傳崇 ... 贊
一山国師墨跡 一行書
南無慈悲方行菩薩
猿猴 牧渓
布袋 顔輝
猿猴 牧渓
同
月
梅
同
松
山水 王澗
黙庵 ... 一山賛
芦雁
上 水 馬 ...

明正院御筆消災呪 巻
密庵和尚墨蹟 幅
南浦和尚墨跡 泉州人伊丹屋宗哲所附表具ハ小堀遠州不食也 幅
蘭渓和尚所書金剛経 折本 部
大燈国師所書済大川録 冊
栗柿 牧渓筆 桐阿弥外題有之 菓子之絵一云 幅
誠子内親王所書俊成卿之色紙 掛
妙音祥院所書六歌仙 掛
千利休書瓢庵文 幅

瓢中 ... 付 ... ま
そりうかし 又ゆうみ
中 ... そ ...
瓢庵 ...
利休

堆朱香合　樹下人形紋文字　圓香箸之小堀遠州寄附　一箇

下土茶碗　千ノ利休所蔵宗及傳之　一箇

唐物丸壺茶入　箱蓋遠州書之［丸つほ］　箱蓋ニ翠岩琚和尚書　一箇

同文琳茶入　玩紫文琳　袋崩菱宝尽し緞子　大通菴　大通菴ハ宗及ガ叉津田宗達ガ菴なり　一箇

同　鶴頸茶入　箱蓋ハ江雪和尚筆　鶴頸　唐物　一箇

飛菓瓢箪茶入　箱蓋ニ江雪筆あり　瓢箪　江雪　一箇

建盞天目　小黒ク唐薬ニ白星内外ニあり　一箇

曜變天目　黒ク瑠璃色ノ有星　黄色白色ニ交る　一箇

臺　建盞ニ添　小振菱花形青貝菊文　ホフブキ内不残朱塗　一箇

盆　丸盆添　黒塗菱形　外ノ縁曲　足内ニ彫付　天　〇　円ノ字カ　一箇

内赤盆　丸内外朱塗外の縁ニ牡丹。菊。梅。山茶花。四ツ宛彫刻を香臺の内黒塗　一箇

茶杓　宗及作　筒ニ更ニ幽作とあり　自筆といふ　一本

当當山の什寶数百品ありといへどもくはしくこれを見知せざれは其記を筆紙かたく故にこゝに略す

塔頭繪様

○靈山德禪寺　開祖徹翁和尚諱義亨嗣ニ開山大燈ニ應安二年五月九日寂ス賜ニ天應大現國師ノ一相傳ふ寺は初め洛東に池築山あり山中ニ玲瓏閣竹影閣あり池中ニ舟を泛べく灌頂に今の松源書徳及び侍者の民家みなかゝりし乃ち靈山の境内之今ハ書徳の茶座安居院門南の隅ニなり然れども此の池北畔にありみな田畝となる應仁の火後衰微の宗純再興今三門の東南にあり塔頭寺一位之春日神祠は鎮守なり

容殿襖　龍虎画　狩野探幽筆

○如意菴　密傳正印禪師言外宗忠和尚應安中所ノ創也　塔ニ在

如意菴額　後奈良帝　後奈良帝宸筆

容殿中之間　墨画山水　狩野古法眼筆

檀那間　墨画西湖圖　同筆

あゝ人
画所
一休和尚
比叡
掛物にせんと
大徳あり
一休和尚
世の中に掛物を
その一物をとる人は
三國一の掛物

○大用菴 大機弘宗禪師華叟宗曇和尚及び宗慧大照禪師養叟和尚の開創也應仁後宗源興隆す方丈の北にあり其後松源の門内にうつさる

客殿中間 古法眼筆

禮之間大書院 小栗宗丹筆

昔今ノ松源院客殿是之

○松源院 正續大宗禪師春浦宗熙和尚創之

松源院額春浦和尚筆

客殿中間 墨画花鳥 古法眼筆

禮之間 墨画山水 周文筆

舊客殿中之間 相阿弥筆

禮之間 宗律

○眞珠菴 永禄十二年ノ冬改ニ大用松源ニ為ニ一院ノ客殿ハ古への大用也

一休宗純和尚の塔所融華叟文明十三年十一月廿一日寂す八十八歳

永享年中建應仁の火後宗源一休和尚と心を同しうしく當山の伽藍及び諸院を營んと事を興して次第に落成す宗源等師に從ひ[illegible]を營んと師諱して云先師の塔所悉く兵火にかゝれは[illegible]あらんの[illegible]起

脱ツ如意大綱等の祖塔を營んに珊継ツく後一休和尚瑞様酬恩庵に寂るに宗臨居士が衆志を繼く當所に新建しく師の塔所とし方丈の北にあり宗臨ハ泉州堺の人俗名尾和四郎左衛門文亀元年十一月廿日没法号祖渓

客殿中ノ間 墨画花鳥 曾我蛇足筆

禮ノ間 墨画眞山水 同筆

書院 卅ノ山水 同筆

檀那ノ間 四皓 同筆

衣鉢ノ間 蜆子猪頭 長谷川等伯筆

何似之額 一休和尚筆

○養徳院 佛心大弘禪師實傳宗眞和尚落[illegible]初ハ祇園の[illegible]にあり後世當山に移して徳禪院の東にあり

○養徳院殿贈從一位左大臣源滿詮の[illegible]小川殿と號す義滿と同母應永廿五年正月十四日薨五十一歳足利義詮の弟なり母ハ紀氏善法院通清法印の女なり

客殿中ノ間 芦雁 小栗宗丹筆

禮ノ間 墨画山水 周文筆

檀那ノ間　蕣彩色 琴碁書画　同　筆

衣鉢ノ間　墨画山水　小栗宗丹筆

○南竜源院　仏慧大円禅師東溪宗牧和尚塔所本山の東にあり東溪の児孫なお称しく南派といふ
永正年中能州太守畠山修理太夫義隆造立し以義隆
大正二年家臣遊佐氏が為に弑殺せらる

客殿中ノ間　墨画列仙　等伯筆

禮之間　蕣彩色 山水　同　筆

檀那ノ間　墨画猿猴　同　筆

龍源院ノ額　朝鮮人梅屋筆

○北大僊院　正法大聖禅師古岳宗亘和尚塔所本山の北にあり故に北派といふ永正年中に建

客殿中ノ間　墨画山水　相阿弥筆

禮ノ間　墨画耕作　狩野雅楽助筆

檀那ノ間　彩色花鳥　古法眼筆

衣鉢ノ間　墨画祖師之図　同　筆

大書院　朱買人西王母 太公望　同　筆

庭中名石有数二十負　林泉　相阿弥作

法螺石　布袋石　神鞍石　観音石
沈香石　宝山石　伏虎石　釣舟石
臥斗石　仙帽石　拂子石　佛盟石
佛子石　獨醒石　明鏡石　不動石
蓬亀石　座禅石　真珠石　拄杖石

○南興臨院　日暮門ノ内　佛智大道禅師小溪紹怤和尚塔所　天文年中能州畠山左衛門佐義綱建立法号興臨院
伝為徳胤天文十二年七月十二日卒
加州太守大納言前田筑前守菅原利家卿重修次法号
高徳院贈一位慶長四年閏三月三日卒六十二歳

客殿中ノ間　墨画山水　古法眼筆

禮ノ間　彩色花鳥 麝香猫　同　筆

檀那ノ間　彩色　土佐光信筆

興臨院ノ額　為日本國天啓和尚　大明梅屋方伯行書　以十六字アリ

南
○瑞峯院　普應大満國師徹岫宗九和尚塔所　興臨の南に在
天文二年大友左衛門督義鎮造立　義鎮ハ大友修理
大夫義鑑の男　天正十六年五月廿三日卒　五十八　号瑞峯院
休庵宗麟

客殿中ノ間　墨画七賢四皓　巣父許由　古法眼筆

禮ノ間　着彩花鳥　松栄直信筆

檀那ノ間　彩色堅田圖　土佐光信筆

瑞峯院ノ額　後奈良帝宸筆

北
○聚光院　方丈の北にあり　祖心本光禪師笑嶺宗訢和尚塔所
永禄九年三好左京大夫義継父修理大夫長慶の
為に建立す　長慶ハ永禄七年七月四日卒す　阿讃土濃の
四州及び泉河の二州等を領す　次義継ハ天正元年十一月
六月河州若江にて織田
信長のために自殺す

客殿中ノ間　墨画松竹梅　芦鴈　狩野永徳筆

禮ノ間　墨画山水　同筆

檀那ノ間　瀟湘八景書画　同筆

北
○總見院　白毫院旧跡　建之大慈廣照禪師古溪和尚大悲
廣通禪師玉甫和尚の開祖とし聚光の西に
あり　天正十年中秀吉公右大臣信長公のために建之　信長ハ
天正十年六月自殺　四十九　号總見院殿従一位太政
大臣　○秀吉公ハ慶長三年
八月十八日薨　六十三歳

客殿中ノ間　墨画山水　長谷川等伯筆

禮ノ間　墨画山水　猿猴鶴　同筆

檀那ノ間　墨画芦鴈　同筆

南
○黄梅院　昊山徳禪の為にあり　仏通大心禪師春林和尚
塔所　天正十一年中納言従三位小早川左衛門督
隆景の造立　隆景ハ慶長二年六月十二日卒す　六十四
号黄梅院殿泰雲紹閑　隆景の子金吾秀秋翔輝光閣
殿為外護

客殿中ノ間　七賢人　等顔筆

禮ノ間　墨画芦鴨　同筆

檀那ノ間　墨画湖圖　同筆

大徳寺塔頭
寸松庵
林泉
佐久間将監作

其貳

南
○三玄院 總見の南にあり 開祖圓鑑國師春屋和尚塔所
淺野紀伊守幸長 森蘭丸長定 森長門守
忠政等の墓あり
幸長ハ弾正少弼長政の男 号ス清光院春翁宗雲 居城
紀州和歌山城 領ニ三十七万石 慶長十八年八月廿五日卒ス
長定ハ森三左衛門可成の男 天正十年六月二日戦死 廿三才
濃州岩村城主 領ニ五万石
忠政ハ蘭丸の弟 寛永十一年七月七日卒ス 六十七才
作州津山城主 領ニ十八万石

客殿中ノ間　墨画　山水　等伯筆
禮ノ間　同　山水　同筆
勅使間　同　人物　同筆
北ノ間　同　柳燕　同筆

南
○金鳳山天瑞寺 總見の西にあり 佛機大雄禅師玉仲和尚塔所
開基ハ天正十六年秀吉公為ニ先妣贈准三后従
一位春巌大姉ノ建ル 法名天瑞寺宗桂と号ス 後世
称ス大政所ト 文禄元年七月廿六日逝ス 八十才

客殿中ノ間　惣金彩画　松一式　狩野永徳筆
禮ノ間　同彩画　竹一式　同筆

檀那ノ間　同　桜一式彩色　同筆
衣鉢ノ間　同　菊一式彩色　同筆
大書院　墨画山水　同筆
東ノ間　墨画竹三笑圖　同筆
北ノ間　同　富士山　同筆

南
○正受院　龍翔の南にあり廣徳正宗禪師清拙和尚塔所
豐後屋出羽守頼隆造立　関長門守一政再造
客殿中ノ間　墨画列仙　狩野興以筆
禮ノ間　同　山水　同　壽石筆
檀那ノ間　同　山水　尚景筆

南
○大慈院　瑞峰の西にあり佛国大安禪師天叔和尚塔所
天正年中建立　大友左衛門督義鎮の妹見性院。
信長公の女兄安吉院。村上周防守義明蓮雲院殿。
左馬介弘定梅林院殿。等檀越之
客殿　一式花鳥山水　等伯筆

北 ○高桐院 大慈廣通禪師玉甫和尚塔所 忠興造立

慶長年中参議従三位細川越中守忠興初メ居ニ丹後田邊城ニ中ニ移テ豊前小倉城ニ封ニ之ニ十八万石ヲ其後関原の役ニ軍功あるをもつて忠興の男越中守忠利を改て肥後州ニ封ス領ニ五十四万石ヲ忠利又逆く本州八代城に居ル忠興正保元年十二月二日逝 八十三歳 号ニ松向寺殿三斎宗立居士 乃チ玉甫和尚の甥なり

客殿中ノ間　墨画 樹木一式　等伯筆

禮ノ間　柳に驢馬　同筆

檀那ノ間　蠶室圖 圍梁楷眞筆写ニ長谷川五代目等伯也　同筆

衣鉢ノ間　千鳥圖　等伯筆

大書院　山水　同筆

北 ○玉林院 高桐の南にあり大興圓光禪師月岑和尚塔所

慶長年中養安院法印曲直瀬正琳造之元和七年回禄に及ぶ月岑自ら衣盂を整へ重て建る別に正琳の字ヲ分ケて玉林と改む

客殿中ノ間　墨画 山水　将監探幽筆

禮ノ間　同 山水　菅朴筆

檀那ノ間　七賢 四愛堂　元眞筆

衣鉢ノ間　琴碁書画　洞雲筆

大書院　墨画 鶴　探幽筆

西ノ間　同 山水　洞春筆

杉戸　一間半一枚折 松に猿猴　一間二枚 竹に鶴 一間二枚

襖　一間半二枚 松に鷹　不知筆者

北 ○大光院 金龍の南にあり大慈廣照禪師古溪和尚塔所

文禄年中造立 正二位大納言秀長 和州郡山城及び紀州泉州を領し七十三万石を領す元和年中藤堂和泉守高虎當山に移す

○秀長は秀吉公の弟 天正十九年正月廿二日薨す大光院殿春岳宗栄と号す其長男中納言秀保後に古溪和尚と謀して創ニ大光院ヲ

○高虎ハ寛永七年十月五日卒 年七十五才 号ニ寒松院殿

客殿中ノ間　墨画 七賢四皓　永眞筆

禮ノ間　墨画 夏ノ景　同筆

檀那ノ間　墨画 秋ノ景　同筆

夜鮮ノ間　墨画秀ノ系　同筆

大書院　墨画甚ノ系　同筆

南○金龍院　天瑞の西にあり佛性心宗禅師傳叟和尚塔所
慶長年中金森五郎八長近造立信長公の
冥福の為に薦メ初メ老松和尚の弟子を住持させしむ故
有く當山の横出して後政を傳叟和尚を請して
○長近ハ去部ノ法印と号し飛州高山城に居れ

客殿中ノ間　山水　長谷川等伯筆

禮ノ間　四愛堂　同筆

檀那ノ間　大松　同筆

夜鮮ノ間　山水　同筆

金龍院ノ額　朝鮮人黄龔筆

杉戸　芦ニ鷺　紅葉ニ鹿　四枚二枚打彩色　等伯筆

南○昌林院　大雄殿の西にあり旧霜軒法竜太源禅師先南
和尚の塔所文禄年中蒲生飛騨守氏郷開基男
飛騨守秀行造立しく父の功徳と為なし氏郷ハ文禄
四年二月七日卒四十才奥州會津城主百万石

客殿中ノ間　七賢　安信筆

禮ノ間　山水　同筆

檀那ノ間　山水　同筆

北○龍光院　玉林の南にあり大梁興宗禅師江月和尚塔所
黒田筑前守長政の文勤解由源ノ孝高の為に
造立ス長政ハ筑前福岡城五十二万石元和九年八月
四日卒五十八才号興雲院殿
孝高ハ天正十四年秀吉公に奉し豊州中津城六万石
慶長九年三月廿日卒五十九才号ス龍光院如水圓清

聯芳堂　院内にあり中位に達磨像左圓鑑國師右
興宗禅師と安ス又後陽成院弟六ノ皇子
好仁親王号ス高松殿一条江月ニ称ス入室弟子ト為ル院牌
弑して又吉川美濃守廣正礼江月ニ問法ス其父蔵人侍従
廣家の遺命を以て立墓於當院廣家ハ居防州岩國城ニ領六万石
寛永二年九月廿一日卒六十四才号全光院殿中岩如兼

客殿中ノ間　廊松仙人　等顔筆

禮ノ間　松ニ仙人　等伯筆

檀那ノ間　眞ノ山水　等顔筆

夜鮮ノ間　金山寺圖　同筆

大書院　草山ノ圖　同　筆

杉戸　一間半貳枚　唐獅子四疋　同　筆

北

○芳春院　直指心源禅師玉室和尚塔所　慶長年中加州金澤城主中納言前田肥前守利長の母
華岩主人造立ス主人加州大納言利家ノ室土方採部助ノ
女ヲ元和三年七月十六日逝ス號ニ芳春院華岩宗富ト又
後陽成院第七皇子一條関白昭長公慧觀為ニ當院檀越

呑湖閣　横井氏田屋等造ル　又有ニ絶雲亭打月橋一

客殿中ノ間　着彩色　祖師圖　探幽　筆

禮ノ間　墨画　獅子牡丹　同　筆

檀那ノ間　着彩色　四愛堂圖　同　筆

衣鉢ノ間　墨画　山水　同　筆

大書院　着彩色　花鳥　同　筆

小書院　墨画　山水　同　筆

右二十四塔頭由致ハ龍寶記を拔萃次

○寮舎

○龍泉庵　松源院寮舎　陽峯和尚塔所　明應年中多賀豊後守高忠子孫為ニ檀越

客殿中ノ間　西湖圖　興意　筆

禮ノ間　人物　同　筆

衣鉢ノ間　耕作圖　同　筆

檀那ノ間　梅花　同　筆

大書院　栁本斗画　同　筆

杉戸　一間二枚　竹ニ鶴　彩色一間二枚　野雉　已上六枚共ニ　同筆

北

○清泉寺　三玄院寮舎　開基實傳和尚　中興傳外和尚　旧地伏見
にあり舊ハ宋ノ治川の流後ちに木幡山の麓に
接ル其清流を源とし以て寺號とし慶長年中に立
今栽松軒とし一大僊の画あり

客殿中ノ間　着彩色　山水　等伯　筆

禮ノ間　四愛堂　同　筆

檀那ノ間　琴棊書画　同　筆

衣鉢ノ間　山水　同　筆

大書院　山水　同　筆

○瑞源院　芳春院の寮舎大光の西にあり江月を開祖とし
水野日向守源勝成所造備後福山の城主之

客殿中ノ間　墨絵人物　等益筆

禮ノ間　山水　同　筆

檀那ノ間　耕作　同　筆

○寸松菴　龍光院子院江月を開祖とし元和七年造立
佐久間将監実勝領一万石

客殿中ノ間　曲水　探幽筆

禮ノ間　居中山水　同　筆

檀那ノ間　花鳥　同　筆

衣鉢ノ間　西湖八景　同　筆

書院　袋棚　蒙求　菓子　葡萄　栗　瓜　同　筆

同　額　鳳水洞　林道春筆

額　寸杏菴　瀧本昭乗翁筆

廊額　空歩廊　同　筆

○梅岑菴　陽岑院寮舎天祐和尚塔所

客殿中ノ間　松竹梅　狩野典也筆

禮ノ間　花鳥　別不如閑筆

檀那ノ間　八景　同　筆

大書院　人物　同　筆

衣鉢ノ間　人物　同　筆

○高林菴　芳春の寮舎芳春の裡にあり玉舟和尚塔所慶長中宣典謹
寛永中片桐石見守貞昌再建貞昌ハ和州小泉邑領一万石

客殿中ノ間　山水　探幽筆

檀那ノ間　人物　同　筆

禮ノ間　山水　安信筆

衣鉢ノ間　山水　益信筆

大書院　山水　常信筆

玄関ノ額　淺西院帝宸書

○見性庵　隱岑寮舎ニ玄ノ門内ニあり万江和尚塔所
慶長中立

客殿中ノ間　七賢

禮ノ間　林和靖　等益筆

檀那ノ間　眞ノ山水　同筆

衣鉢ノ間　山水　同筆

○常樂庵　玉林の子岸古溪和尚所造後慶長
細川越中守源ノ綱利ノ彪大岸和尚と謀して新ニ興ス

客殿　松升梅一式　狩野永納筆

○孤蓬菴　龍光院子菴江月和尚爲ニ開祖一小堀遠江守政一
造立　政一正保四年二月六日卒　六十九歳

客殿　山水　周信筆

禮ノ間　松升梅　同筆

檀那ノ間　同　同筆